

IV. 平成28年度前期 南紀熊野サテライト開講授業

1. 大学院授業科目

授業科目名 (英文表記)	地域プロデュース特論 ～映画と落語を用いて～ (Advanced course in Local Producing)		
単位数	2	授業形態	講義
担当教員	木川 剛志		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 4月15日(金) 18:30～20:50		
	第2回 4月16日(土) 10:30～16:00		
	第3回 4月22日(金) 18:30～20:50		
	第4回 4月23日(土) 10:30～16:00		
	第5回 5月13日(金) 18:30～20:50		
	第6回 5月14日(土) 10:30～16:00		

【授業のねらい・概要】

まちづくりに必要な人材は「よそもの、わかもの、ばかもの」と言われることが多い。これは地域の魅力は、普段からそれに接している住民にとってはあまりにも当たり前過ぎて、逆に見えづらくなっていることを比喻した言葉であろう。本講義では、この視点にたち、住民には暗黙的に理解されてるが外部の人には見えない魅力、これを潜在的魅力と呼び、これをどのように見いだすか、またそれをどのように見える化するか、を映画と落語を主なツールとして学び、実践に用いることのできる手法を学ぶ。

【授業計画】

第1回 「映画とはなにか？落語とはなんかな？」

映画も落語も想像によって、聴衆の頭の中で像を結ぶ芸術である。いくつかの事例をみながら、映画、落語の概要を知り、その演出方法を学ぶ。

第2回 「シナリオハンティング」

担当教員がこれまでに行ってきた映画や落語のプロジェクトを事例としながら、映像プロデュース手法について学び、プロジェクト形成のプロセスを学ぶ。

第3回 「落語台本」

実際に落語台本をそれぞれ書いてみて、講評をしあう。

第4回 「落語台本から演出へ」

身の回りの人物を主人公とした落語台本を、様々な視点から描く手法について学ぶ。

第5回 「映画演出」

落語台本を、映画台本へと仕上げる手法を学ぶ。

第6回 「名作から学べること」

ここまでで学んだことが、実際の名作とよばれる映画や落語のどの部分に現れているかを検証しながら、地域プロデュースのあり方について議論する。

【到達目標】

地域で暗黙的に継承されている潜在的魅力を探索できる目を育成する。また、これらを表現するプロセスを理解し、実践的なプロデュースを学ぶ。

【教科書】

なし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

なし。必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価方法】

授業内での発表や提出物、グループ討論に対する姿勢などの学習状況を見て、総合的に判定します。

【授業時間外学習】

自分で簡単な脚本を書いたり、地域の調べものをするなどの学習時間が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】

基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。